

2012年

2月

18日
(土)

ハンセン病問題の啓発をめぐる課題

何を伝えるのか 誰に伝えるのか

参加費無料 申し込みも不要です

13:30 ~ 16:00

(13時開場)

大阪市立阿倍野区民センター

2階 大ホール

手話通訳・要約筆記あり

点字資料が必要な方はお申し込みください

【宮里 新一ミニライブ】

8歳でハンセン病を発症し9歳の時に沖縄愛楽園に入所。16歳でギターとであう。大学に進学するも、23歳で再入所。社会復帰を夢見て、愛楽園入退所を繰り返す。病歴を隠して就職するが音楽への夢捨てきれず、2001年の国賠訴訟勝利判決を機に病歴を公表して翌年「生き直しコンサート」を熊本で再開。全国各地でライブ活動中。



【シンポジウム】

ハンセン病問題の啓発をめぐる課題

～何を伝えるのか 誰に伝えるのか～

ミュージカル「ドクターサーブ」問題が見つけたもの

コーディネーター

奥田 均 (近畿大学人権問題研究所教授)

シンポジスト

神 美知宏 (全国ハンセン病療養所入所者協議会会長)

宮良 正吉 (ハンセン病関西退所者原告団
いちょうの会会長)

大槻 倫子 (ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会・
関西実行委員会 / 「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟・瀬戸内弁護士)

和泉 眞藏 (アイルランガ大学客員教授 /
熱帯病研究所ハンセン病研究グループ)

